

# 恵みと真理のニュース



2016年5月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

いつも、私と共にいらっしゃって警察官の夢を成し遂げるように

摂理してくださった神様を賛美します

私は教会学校で幼稚部教師として奉仕している今年26歳になった青年です。短い人生でしたが私の以前の生きたのを振り替えてみると神様は大きい愛でいつも私と共におられ今日も大きい権能を私に与えてくださいました。

中高等学生の頃が神様を信じて神様に恨みと不平をする未成熟な子供でした。祈りをするのは全て神様が答えてくださると思っていました。そりですぐ自分の思い通りに出来ないと落胆して神様に恨んで不平をしました。

祈りは多くしましたが神様の御心を求め、神様が導きを求めて知恵と能力の足りなさを悟って神様の助けを求める正しい祈りではなかったです。自分の思い通りになるように祈ってそうしないと詰め寄るように間違った祈りをしました。たぶん、神様も私の祈りに答えたくなかったと思います。しかも、礼拝の時間にも友達と遊んだり居眠りするのが普通でした。聖歌隊の練習も休んで友達と遊びに行き先生に心配をかける学生でした。そうしても、神様に祈るのが好きでした。神様の愛が感じられた時が祈りの時でした。私が一番大変な時に涙で祈ると聖霊様の慰めが臨んで平安になりました。祈りの後賛美を歌って聖書を讀むと力が出来ました。神様の心を悲しんだ罪を犯したら神様に戻って来て悔い改める祈りをすると赦してください、抱いてくださいました。思春期の頃愛が多かった神様を知っていたにも関わらずともすれば文句を言って腹を立てた私でした。

大学入学の試験を受ける時が思い出します。高校3年生になると聖歌隊で奉仕は休みましたが、いつもよりもっと熱心に礼拝を捧げ熱心に祈りをして勉強をしました。母も礼拝がない日にはエスターの祈り会で私の大学進学のため祈りました。ところが、試験の結果は悪かったです。模擬試験より2等級も低い点数でした。このときが一番神様を恨んで怒りました。その時には入試の成績と願う大学進学が人生の成功を決定するのと思ったからです。入試試験の結果がこれからの人生においてどんな道につながるかその時には知らなくて絶望して恨みました。

願わなかった大学に入って大学生活に興味を感じなくさまよる時に母と教会学校の先生が奉仕をするように勧めました。

生活に活力になるし、子供達も好きだったので拒否感なくすぐ予知部で奉仕し始めました。

幼稚部で奉仕する間、神様が私に多く与えてくださった御言葉が“子供のような信仰を持ちなさい。”という御言葉でした。私は奉仕して子供を教える教師ではなく子供から習う学生になりました。幼稚部の児童の純粋な信仰見てその信仰を真似するように努力しました。何か願って祈ってそれがすぐ成し遂げたら神様に感謝するのではなく、イエス様だけその名を賛美してイエス様の名で感謝し、どんな状況でも相変わらずイエス様を愛する信仰を習おうとたくさん考えました。このことを通して私より若い幼稚部の子供達からたくさん習って成長する時間でした。

私は軍隊を除隊した後、大学をやめて早く職業を持ちたいでした。多くの考えと祈りを通して国と国民のため仕事をする安定的な公務員になろうと決心しました。特定の職種を決めませんでした。が始めた私に幼稚部で共に奉仕する先輩警から警察公務員試験を受けるように勧められました。ちょうど警察公務員試験が先にあるので早く合格したくて本格的に警察公務員試験準備をしました。しかし、易しい試験ではないでした。先輩は合格しましたが私は不合格でした。しかし、私は自分に失望しなかったです。神様を恨まなかったです。主は私の心に神霊な慰めと平安を与えてくださって次の試験をすぐ新しい心と覚悟で再び勉強をするように新しい力をくださいました。その前はすぐ自分が思った通りにならないと不平しましたが、今は驚くほどそんな心がなくなってその変り勇氣と夢がもっと明らかになりました。その間、礼拝と奉仕する生活を通して自分も知らずに神様に対する信仰と愛が深くなりました。いつも私と共におられ良い道に導いてくださる神様を完全に信頼するようになりました。

二回目の試験が享年2014年8月にありました。その間いつもこの日を考え祈って試験準備に最善を尽くしました。勉強して自信も充満になり今回は必ず合格すると確信になりました。神様に祈れば自信がもっと強くなりました。頭が良くて、準備をして当然合学すると高慢な心ではなく神様が私の足りないところを満たして下さって合格できると祈りをする時ことに確信を得ました。

試験を控えて教会学校の大事な夏の行事である夏聖書学校が開かれました。聖書学校を準備するかたわら最後の試験勉強

に集中するためストレスをたくさん受けました。父は試験が近くになったので教会に行く時間を減らすように叱って、イエス様を信じない親戚はそのように試験準備をしたら絶対に合格することは出来ないと言いました。体が疲れて心にもたまに腹が立ちましたが“当分は教会学校を休んで勉強に専念してみようかな？と少し考えました。しかし、この難しい過程を良く乗り越えたら神様が大きい恵みを与えてくださると思って二つのことを疎かにしないで誠実に夏の聖書学校を終えました。

夏聖書学校が終わってすぐ二回目の試験の日になりました。筆記試験をうける時に問題が難しく瞬間驚いたのですが、大きい心配はしなかったです。聖霊に満たした私が神様は続けて自信を与えてくださったからです。試験が終わって仮に採点をしたら勉強した内容は間違いがなかったし、良く知らない問題と感わず問題も良く答えました。最後の科目まで採点をしたら驚きました。神様がその日驚くほど知恵と大胆さを与えてくださった結果でした。神様の恵みで筆記試験に続いて体力試験と面接試験まで全ての過程を良く通過しました。そうして、今警察官の夢を成し遂げてクリスチャンだから使命を持って夜も昼も熱心に働いています。私が切に感じて神様に感謝することは熱心に神様に礼拝しどんな状況でも神様を強く信頼すると神様はその人生を導いて経営して下さる事実です。全知全能な神様は私達の考えより一番良い時間に一番良いもので答えてくださり栄光捧げるようにしてください。

そして“何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。”(マタイの福音書6:33) 主の御言葉に深く悟りました。入試試験の点数が良くなかった時に自分が恥かしくて神様に不平不満をしましたが、その時に自分が期待した結果を得なかったのが他の機会をもっと早く探したきかけになりました。むしろ有益になりすべてが神様の摂理で愛だったのを感謝を捧げます。弱い信仰でも私を捨てなくて主の愛で抱いてくださった神様、強い信仰を持つようにして下さり私の道を予備して福ある道で導いてくださった神様を賛美し今日もこの栄光を神様に捧げます。



【信仰コラム】

私には乏しいことはありません

“主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない...” (詩編 23 編)

“主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない”というお言葉は聖徒達の実状がとて切実に含蓄されている節です。神様と信者の関係そして、信者が享受するようになる神様の恵みを如実に表せています。このお言葉の意味を私達が十分に分かるようになるとこの節を暗唱することだけで無限な喜びと幸福感を持つようになります。イエスキリストを信じる人は“わたしには乏しいことがない”と話すことができそのように話すことが適当です。その理由を調べてみましょう。

第一、主はわたしを青草の原に休ませてくださるからです。羊に青草の原は糧食です。神様は宇宙と歴史を主管なさい摂理なさる大きな神様であるだけでなく彼の民、彼の子の日用の糧食を供給して下さる細やかな父親である神様です。神様が広野を行進するイスラエルの民に日用の糧食を供給して下さり収穫することのない広野で彼らが40年を過ごす間に飢えて死んだ人は一人もいませんでした。イエス様が“だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな...まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう”(マタイによる福音書 6:31~33)と言われました。

第二、憩いの水のほとりに導いてくださるからです。憩いの水のほとりとは平安と安息を意味します。イスラエルの民が広野の道に差し掛かるようになった時、神様が昼には雲の柱で日覆いを張ってくださり夜には火の柱で暖かくして下さって彼らは憩いの水のほとりに導かれる羊のように広野を通行しました。今日、聖霊充滿を常に求めて、神様のお言葉を心に置く人はストレス要因が多い広野の道を歩きながらも神様が与えて下さる奇異な平安と喜びを体験しながら生きていくことができます。

第三、わたしの魂をいきかえらせ正しい道に導いてくださるからです。この世に生まれる全ての人の魂は神様の生命から離れており、過ちと罪で死んだ状態にあります。このような人間が誰でもイエスキリストを信じて罪の許しを受け新たな命を得て神様の子に再び生まれるようになります。そして、神様の正しさを被るようになります。キリストイエスの中にある救いによって神様の恵みで働かし義とされるようになります。

第四、私と共におられてくださり、主のむちとつえで慰めてくださるからです。人生の道には死の陰の谷があります。このような時に恐れないう神様が措置して下さいます。聖徒達は人生の道を一人で歩みません。主が共におられて下さいます。従って、死が迫っても恐ろしいことはありません。主が私達の手をつかんで天国に導いてくださるはずであるからです。

第五、私の杯が溢れるようにして下さるからです。

“あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け...”としました。これは敵が見る前で勝利を得るようになしてください。これは敵の杯はあふれます”としました。これは敵の妨げを克服するしてさらに、災いを転じて福と成して下さることを意味します。

第六、主の恵みといつくしみが一生の間私を伴うからです。私達が苦境に遭うと神様の恵みと慈しみを疑う考えが心に入ります。しかし、恵みと慈しみは神様の変わらない気性であります。人が太陽に向けて歩いていくと陰が必然的に伴うのと同様に神様に仕える聖徒の一生に神様の恵みといつくしみが必ず伴います。

第七、主の宮に住むようになるからです。この世で主の宮と呼ばれる所は教会です。教会は神様の子である聖徒達が集まって神様に礼拝する宮です。聖霊充滿であれば教会に集まって礼拝と奉仕をして聖徒達と交わることが楽しいです。聖徒はこの世で上のような楽しみを享受してとうとう、天に備えられた父親の家に行きます。そして、そこで永遠に住むようになります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

## キリストイエスによった信仰



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

イエス様は人間の罪を代わりに担当して十字架に釘付けられて死んでから葬られて三日ぶりに復活しました。復活したイエスキリストが40日間に弟子に現われて神様の国に対するのをおっしゃいました。天に昇る前に弟子に言いつけるのを“エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう（使徒行伝、1:4, 5）”としました。そしておっしゃるのを“ただ、聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう”としました。イエス様の言付けたとおり弟子がエルサレムのある家に集まったがその数字は120人の余りでした。彼らが集まって心を一緒にし完全な心で祈禱に力をつくす中で十日が経った五旬節の日に聖霊降臨がありました。その日皆が聖霊で充満するようになりました。権能を受けた弟子はその日から胆大で情熱的に福音を伝えました。特に使徒ペテロとヨハネの活躍とペテロの積極的な福音宣布で教会が爆発的な復興をしました。

ある日は9時の祈禱の時間にペテロとヨハネが聖殿に上がっていました。聖殿門の前に物乞いするいざりがありました。ペテロとヨハネが彼を注目しました。ペテロが彼に向けて“「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」”として、彼の右の腕を取って起こしました。その瞬間彼の足と足首が直ちに力を得てむっくり起きてかけました。彼はほめたえながらペテロとヨハネとともに聖殿の中に入って行きました。聖殿に集まった人々が彼を見知って甚だしく奇妙に思いながら驚きました。彼らが聖殿外にあるソロモン朗間に至ると多くの人々が寄り集まりました。人々はいざりであったがいやしを受けた男がペテロとヨハネをつかんでいることを見てペテロとヨハネを注目しました。ペテロが言うのを“アブラハム、イサク、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエスに栄光を賜ったのであるが、あなたがたは、このイエスを引き渡し、ピラトがゆるすことに決めていたのに、それを彼の面前で拒んだ。あなたがたは、この聖なる正しいかたを拒んで、人殺しの男をゆるすように要求し、いのちの君を殺してしまいました。しかし、神はこのイエスを死人の中から、よみがえらせた。わたしたちは、その事の証人である。そして、イエスの名が、それを信じる信仰のゆえに、あなたがたのいま見て知っているこの人を、強くしたのであり、イエスによる信仰が、彼をあなたがた一同の前で、このとおり完全にいやしたのである。”（使徒行伝、3:13~16）としました。‘その名前’と‘信仰’が重ねて言及されました。‘その名前’は‘イエスキリスト’です。‘その信仰’は‘イエスキリストから生まれ信仰’です。信仰の根拠と出処がイエスキリストです。

人が持つ信仰の中に一番偉大で恵まれた信仰はイエスキリストによった信仰です。イエスキリストによった信仰と言うのは‘イエスキリストが行った事を信じる信仰’です。また‘イエスキリストが予言なされて約束したお言葉を信じる信仰’です。こんな信仰を持つとすればイエスキリストが行った事と約束したお言葉をきかなければなりません。聖書に記録されるのを“したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。”（ローマ人への手紙、10:17）としました。イエスキリストによった信仰にはさまざまな種類があります。その中に何種類をよく見ます。

### 第一は、イエスキリストによった信仰には救いを得させる信仰があります。

ペテロの第一の手紙、1章に記録されるのを“あなたがたは、イエス・キリストを見たことはないが、彼を愛している。現在、見てはいないけれども、信じて、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれている。それは、信仰の結果なるたましいの救を得ているからである。”（ペテロの第一の手紙、1:8,9）としました。私たちの罪をあがないしようとこの世の中へいらっしゃったし十字架に釘付けられてから死亡の権勢を勝って復活したイエスキリストだけが救世主です。イエスキリストによった信仰の以外にはどんな信仰も救いを得るのができません。救いを得させる信仰の根拠と出処はイエスキリストだけです。

### 二番目は、イエスキリストによった信仰には病んだ体が癒されさせる信仰があります。

パウロとバナバはアンデオック教会で聖霊様の指示を従って宣教師で派遣されました。二人が多く都市に至る所を通って福音を伝える中にルストラに行きました。パウロ使徒がルストラで集まった人々に説教する中にいざりになった人を見ました。その人は生まれからいざり出来た人でした。パウロ使徒がそのいざりに向けて大きい音で言いました。“あなたの足でまっすぐ起きなさい。”パウロ使徒が説教する中にそのいざりに関心を持つようになって彼に向けて大きい音で“あなたの足でまっすぐ起きなさい。”と言った理由があります。使徒行伝14章に記録されるのを“この人がパウロの語るのを聞いていたが、パウロは彼をじっと見て、いやされるほどの信仰が彼にあるのを認め、”と告げました。ここで‘救いを受けるあたいする信仰’と言うのは‘治療を受けるあたいする信仰’を意味します。その信仰は彼がイエスキリストに対して入ることで持つようになった信仰です。エルサレム聖殿の美門の前に座っていたいざりが持った信仰のようなのです。‘イエスキリストによって生まれる信仰’です。

### 三番目は、イエスキリストによった信仰にはすべてのもの万事を益となるようにして善を成すことを確信する信仰があります。

この世は天国ではないです。さまざまな苦難があります。ひょっとすれば気落ちしやすいです。こういう時は私たちがイエスキリストを眺めなければなりません。眺めるということは深く考えることを意味します。ヘブル人への手紙、12章2節に記録されるのを“信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。

彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。”と言いました。イエス様は復活とあがない使役の成就と神様の宝座の右側に座る楽しさのために十字架を耐えました。だからイエス様を思えば患難の中にも気落ちしないです。キリストにあって経験するようになるすべての事は無意味ではないです。合力して善を成します。イエスキリストを信じる信仰で暮しながらあうすべての苦痛と苦難はこの世の中でそれとも天国で極めて大きくて永遠な栄光を得させます。イエス様を眺めればこんな信仰を持つようになります。そして肯定的で楽観的な態度を持つようになります。“それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。”（ローマ人への手紙、5:3,4）

### 四番目は、イエスキリストによった信仰には神様の仕事に力をつくすことを楽しめる信仰があります。

神様の仕事は非常に範囲が広いです。福音を伝える事があります。礼拝のために奉事する事があります。真理のお言葉を教える事があります。聖徒の信仰を屈強にさせるために訪問する事があります。患難を当り者と病んだ者を訪ねて慰めて祈る事があります。教会堂を建築する事があります。このようなことのために時間と才能と財物を差し上げるのが楽しければそれは信仰によったのです。その信仰はイエスキリストによったのです。聖書にはこんな信仰を持った人々の名前と彼らの献身に対する記録がたくさんあります。イエス様の公生涯の活動を助けるために財物を差し上げた人々がいます。ルカによる福音書、8章にこんなに記録されています。“そののちイエスは、神の国の福音を説きまた伝えながら、町々村々を巡回し続けられたが、十二弟子もお供をした。また悪霊を追い出され病気をいやされた数名の婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラと呼ばれるマリヤ、ヘロデの家令クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒にいて、自分たちの持ち物をもって一行に奉仕した。”（ルカによる福音書、8:1~3）。マカヨハネの母は使徒を含めた120人の人々が聖霊降臨を待ちながら祈るように家を使わせました。使徒パウロの宣教活動を助けた人々が多いです。ルカは職業が医者なのにパウロを付きまといながらパウロの健康の面倒を見ました。ブリスギラとアグラの夫婦は天幕を作って売る事業家なのにパウロが要すればどこでも付いて行っし、パウロが指示する所に泊まりました。ルデアは布の商売であったがパウロ使徒の仲間がビリボで福音を伝える時、自分の家を思いきり使うように提供しました。こんな献身は信仰から始まったのです。この信仰はイエスキリストによった信仰です。

人が持つようになる一番貴い信仰はイエスキリストによった信仰です。愛する皆さんはイエスキリストによった救いを得させる信仰だけではなく病んだ体が治癒を受けさせる信仰、すべてのもの万事を益となるようにして合力して善を成すことを確信する信仰、神様の仕事に力をつくすことを楽しめる信仰が常に充満するように願います。